

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三栄工業株式会社本店 新社屋	階数	地下0階地上7階
建設地		構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	60人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,700時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年6月 予定	評価の実施日	2025年4月17日
敷地面積	4,671㎡	作成者	東 雅之
建築面積	786㎡	確認日	2025年4月18日
延床面積	3,995㎡	確認者	東 雅之



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.6</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% 超☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 63%</p> <p>③上記+②以外の 63%</p> <p>④上記+ 63%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Qのスコア = 3.1		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1 	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.7
LR 環境負荷低減性		
LRのスコア = 3.7		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.1 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.7

3 重点項目		
①地球温暖化への配慮 4.4 	③敷地内の緑化 2.0 	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 41.0 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
②資源の有効活用 3.1 	④地域材の活用 1.0 	<外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
三栄工業株式会社本店 新社屋

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境						0.40	-	3.1
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.2	0.15	-	-	-	3.2
1.2 遮音		3.0	3.0	0.40	-	-	-	
1 開口部遮音性能		0.4	3.0	0.40	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	3.0	0.60	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	0.40	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音	床・天井の二面に吸音材料を採用	-	4.0	0.20	-	-	-	
2 温熱環境								
2.1 室温制御		0.3	2.5	0.35	-	-	-	2.5
1 室温		0.6	3.0	0.50	-	-	-	
2 外皮性能		3.0	3.0	0.28	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.38	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	2.0	0.20	-	-	-	
3 光・視環境								
3.1 昼光利用		0.2	3.9	0.25	-	-	-	3.9
1 昼光率	昼光率:2.155%	0.3	3.6	0.30	-	-	-	
2 方位別開口		3.0	4.0	0.60	-	-	-	
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策	ブラインド・庇で昼光を制御する	0.3	4.0	0.30	-	-	-	
1 昼光制御		5.0	4.0	1.00	-	-	-	
3.3 照度		3.0	3.0	0.15	-	-	-	
3.4 照明制御	リモコンで1作業単位ごと照明を制御できる	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
4 空気質環境								
4.1 発生源対策		0.2	3.1	0.25	-	-	-	3.1
1 化学汚染物質		0.5	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 換気		3.0	3.0	1.00	-	-	-	
1 換気量		0.3	3.3	0.30	-	-	-	
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率:0.033≥1/30	3.0	3.0	0.33	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	4.0	0.33	-	-	-	
4.3 運用管理		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		0.2	3.0	0.20	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
Q2 サービス性能						0.30	-	3.4
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.5	0.40	-	-	-	3.5
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	0.33	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		0.3	4.3	0.30	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)	オフィスCH:3.000m	3.0	5.0	0.33	-	-	-	
2 リフレッシュスペース	オフィスに対し20%の休憩エリアを確保し自販機の設置を計画	3.0	5.0	0.33	-	-	-	
3 内装計画		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
1.3 維持管理		0.3	3.5	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	④凹凸のない壁面、壁掛型小便器⑤風除室の1次扉と2次扉に距離を確保⑥維持管理の異なる床材を接近させない⑦防汚性の高い外壁材⑧外部露出する部材に防錆対策を施す⑨段差のない外構	3.0	4.0	0.50	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50	-	-	-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.2	0.31	-	-	-	3.2
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	3.0	0.20	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		0.3	3.5	0.33	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	② 主要内装仕上げは更新間隔の長い部材を採用	-	3.0	0.23	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外配管はステンレス鋼板を採用	-	5.0	0.09	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主用途上位3種の2種類以上にBを採用、Eは採用しない	-	4.0	0.08	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	5.0	0.15	-	-	-	
2.4 信頼性		0.1	3.4	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2 給排水・衛生設備	節水機器を採用、配管系統を区分、汚水槽、受水槽に蛇口を設置	3.0	5.0	0.20	-	-	-	
3 電気設備	② 非常用発電機、無停電電源設備設置、電源装置地下へ設置なし	3.0	4.0	0.20	-	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		4.100m以上の階高を確保		5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.23	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性		② ケーブルラック内に配線する ケーブルラック内に配線する		3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.8	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.48	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.1
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓機能つき水栓が主要水栓の過半を占める 擬音装置付き、洗浄水量の少ない便器の採用(大4.8L・小2L)	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自		3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自 躯体+LGS+ボード(断熱材はGW敷き込み)/OAフロア	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP:0.01未満かつGWP:50未満の断熱材を採用		4.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		① ライフサイクルCO2排出率63%		4.4	0.33	-	-	-	4.4
2 地域環境への配慮			0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		給湯器:エコキュートを採用		5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		独自		3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音		独自		3.0	0.50	-	-	-	
2 振動		独自		3.0	0.50	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.3	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制		工業地域で準住居地域の日影規制を満たす		4.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策チェックリストの一部を満たし、広告物照明を行わない		4.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:41%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 三栄工業株式会社本店 新社屋

計画上の配慮事項	
総合	<p>法令を遵守し来訪者・従事者とも活動しやすい空間となる設計に加えて省エネ性能を満たす建築物とする。</p> <p>各フロア空間を広く感じられる設計とし、打ち合わせ室では吹抜を用い1階との繋がりをもち来訪者にリラックスした印象を与えるものとする。</p> <p>従事者には十分なリフレッシュスペースを備え、フレキシブルな業務を可能とするオフィスレイアウトとする。</p>
Q1 室内環境	<p>従事者が不快と感じる室内環境とならぬよう配慮する。</p> <p>特にオフィス一面は大きく開口しているため開放感を与えるぶん、とりわけ光・温熱に対してはデメリットとならぬよう配慮を行う。</p>
Q2 サービス性能	<p>メンテナンスのしやすい内外装の採用、耐用年数の長い配管の採用、空間における自由度を高く設計する等により長く良い状態を保てる建築物を目指す。</p> <p>意匠性にも可能な限り配慮し、利用者が心地よく過ごせるデザインとする。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>既存緑地を保存し敷地内緑化を維持する計画とする。</p> <p>見通しの良さを確保しつつ、屋外照明と組み合わせ防犯性に配慮する。</p> <p>駐車場と申請建築物の間には庇を設け、敷地内歩行者の暑熱環境緩和に寄与する。</p>
LR1 エネルギー	<p>外皮の熱負荷低減を目指し設備システムの省エネ化に努める。</p> <p>中央監視システムを導入し入居者自らがエネルギー管理を可能とする。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>洗面器における水栓は自動水栓機能つきとし節水型便器の採用とともに水資源に対し配慮する。</p>
LR3 敷地外環境	<p>ガス燃焼機器を導入せず、敷地外へ大気汚染物質を発生させない。</p> <p>建物後流域への風回復、日照及び光害についても敷地外に対し配慮する。</p>
その他	